先生なら、どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていくか」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

受験勉強と部活動の両立に悩んだ末に、苦渋の選択をしようとした生徒に向き合ったあの時

東京都立新宿高校　寺島求

てらしま・もとむ●同校に赴任して４年目。数学科。
複数の東京都立高校で、進路指導に長く携わる。
教師としてのモットー「凡事徹底」は、
進路を切り開くために生徒に求める生き方でもある。

難関大学を目指す３年生から、こんな相談を受けたことがあります。「6 月の運動部の地区大会の結果、上位大会出場が決まれば、8 月まで練習が続きます。自分は受験勉強を優先したいので、上位大会への出場資格を得ても辞退しようと思っているのですが、顧問の先生や家族からは、『ほかの生徒に失礼だ。絶対に辞退してはいけない』と言われてしまって……」。考え抜いた結論を理解してもらえなかったつらさを言葉ににじませながら、生徒はこう続けました。「3 年生の中には、上位大会に進まないで済むように、わざと負けることを考えている人もいます。自分もそうするしかないのかと……」。

わざと負けるしかない ―― 残念な言葉でしたが、生徒の表情から、その結論に至るまでにどれほど悩んだのかも理解できました。受験勉強も部活動も両方頑張った方がよいことは生徒も分かっている。その上で悩んでいる生徒に何を伝えればよいのか。ひと呼吸置いて、私は生徒に語りかけました。

「まずは地区大会で全力を尽くし、結果が出た時に、改めて自分に向き合ってみてはどうだろう。上位大会への出場資格を得て、まだ頑張りたいと思うなら出場すればよいし、もうやり切ったと思うなら、辞退するのも 1 つの選択肢だ。あなたの選択に対して周囲はあれこれ言うかもしれないが、あなたの人生の選択はあなた自身がすればよい。ただ、わざと負けるのは、大義名分が立たない行為だ。その選択をすることで、あなたの心に傷が残ってしまうのではないかということが心配だ」。私は 1 人の人間としての信念を生徒に伝えた後、教師としての経験を踏まえて、言い添えました。「今のあなたの力を見ると、約 2 か月間の勉強の遅れは、その後の努力次第で個別試験までに取り返すことは可能だと思うよ」。

「大義名分が立たない……。そうですよね」。生徒は心のつかえが取れたような様子で言いました。「友達は『わざと負けるのも“あり”だね』と、賛成も反対もしないんです。でもそれは、自分を気遣ってくれていたんですよね。先生にはっきりと『大義名分が立たない』と言われて、すっきりしました。確かに、個別試験までを見据えると、挽回できる時間はありますよね」。

生徒は「地区大会、頑張ります」と、晴れ晴れとした顔で言いました。受験勉強も部活動も両方頑張ることは、簡単なことではありません。もし同じような相談を生徒からされたら、読者の先生方は生徒にどんな言葉をかけますか？

生徒からの相談に回答する際、迷いは生じなかったのか？　本エピソードの土台となる寺島先生の指導観について、ウェブオリジナル記事ではより詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。

https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article16396/

イラスト：カモ